

資料 7

前回審議会における委員意見とその対応方針

● 前回審議会における委員意見とその対応方針

主要意見		対応方針
テーマ	内容	
【資料4】 人口ビジョン	社会増減数の数値がページによって異なるのはどうか。	⇒時点によって数値の整合性が取れていないため、整理を行う。
	完結出生児数を1.92から2.41に引き上げるのは少々ハードルが高いのではないかと感じる。具体的な施策は計画しているか。	⇒20年後の目標値であるため、徐々に引き上げることを目的としている。現段階ではお示しできないが、アンケート調査等の結果を踏まえ、施策案を検討していく。
	「ふるさと回帰1%戦略」対象の卒業生について、県外出身の学生も一定割合存在していると同時に、県外に進学した浜田出身の学生も存在しているが、そこは考慮しているか。	⇒本戦略のターゲット設定を精査し、施策を含めて検討していく。
	出生率・合計特殊出生率を上昇させる点において、自治体の施策でできることは限界がある。各種制度・機関利用率など適切なKPI設定をするべきである。	⇒関連する下位目標や施策内容について検討し、最終的に計画を作成していく。
	上記に関連して、女性に出産のプレッシャーを感じにくいような表現をすることに留意してほしい。	⇒表現や取り組みの見せ方に十分配慮し、計画を作成していく。
	人口ビジョンの策定目的について、言葉に内包する意味についてもう少しわかりやすくしてほしい。	⇒言葉の表現に留意するとともに、必要に応じて意味を補完する説明・注記を加える。
	浜田市内の25～29歳の女性人口の少なさが気になる。背景を整理するとともに、他自治体の傾向についても整理してほしい。	⇒統計データを活用し、確認の上お示しする。
	未婚率を現状のままでこどもを増やす 「妊活しやすい街」として押し出すのはどうか。	⇒担当部局と十分に協議し、施策として検討していく。
	資料内「基本目標」について、総合振興計画内の基本構想や政策体系への関連がわかりにくいと感じた。	⇒今後の協議で目標等を設定し、取組を示したうえで関連性の部分を留意し計画を作成していく。
	「2045年」という数字が唐突に出てくる印象を受ける。長期的見通しと計画期間の8年でそれぞれ見据える目標や取組に乖離が生じないように留意してほしい。	⇒今後の資料にて、整理の仕方を配慮する。

● 前回審議会における委員意見とその対応方針

主要意見		対応方針
テーマ	内容	
【資料4】 人口ビジョン	基本目標Ⅲ「帰ってきたくなる学びのまちづくり」内で代表目標指標案として「地域への愛着」とあるが、愛着だけでは転出者は帰ってこないため、それを前提としたうえで目標指標を考えてほしい。	⇒ 今後整理した内容を示したうえで具体的政策を含め検討する。
	政策体系について、縦割りに見えてしまう。政策目標に向けて横断的に何ができるかをもう少し具体的に示すようにしてほしい。	⇒ 今後計画を作成する中で、横断的な視点を読み取れる表現にできるか検討していく。
全体を通して	今回の議会で県立大学生が転出抑制・転入促進の視点で取り上げられていたが、県立大学生も浜田市を構成するひとりの市民であるため、チャレンジできる機会や環境についての整備を行うことが重要であると思う。	⇒ 市として挑戦する人を応援する環境づくりを計画の中で示していく。
	浜田市内ですでに家庭を持たれている20代市民について意見を聞き、「なぜ浜田を選んだのか」について取り上げることも重要だと思う。	⇒ こどもワークショップや市民アンケートを実施し、そういった声を取り上げる予定である。内容や設問を含め、検討している。
	U(I/J)ターンについて、若年層をターゲットに設定している藩士が多いと感じている。幅広い年代を対象にした施策も検討してほしい。	⇒ 大学進学～就職にあたる年齢層の転出が多いため、ターゲット設計が若年層になっている。幅広い年代対象の施策についても検討する。
	浜田市内の大学生について、市としての支援や地元での働き方を知る機会などを増やす取組について検討してほしい。	⇒ 議会でいただいた意見、今後市民からいただく意見を踏まえて、それに応える努力をしていく。
	浜田市内の地域別政策についても今後示されるのか。	⇒ 第3次総合振興計画においては掲載しないが、個別事業においては地域状況を理解したうえで今後とも丁寧に対応していく。
	総合振興計画の利用者の一人として浜田市民も含まれているため、これから設定される目標値について市からのメッセージとして市民に問いかける動きをしてもいいのではないか。	⇒ 今後にて、計画策定や市民への伝え方について検討していく。

日	4月		5月		6月		7月		8月		9月		日	10月		11月		12月		1月		2月		3月		日
1	水		金	副市長協議(スケジュール)	月		水	予算・決算	土		火	★開会・全協・3常任	1	木		日		火	★開会・全協・3常任	金		月		月		1
2	木		土		火		木	予算・決算(予備)	日		水	一般質問	2	金		月	総務	水	一般質問	土		火		火		2
3	金		日	憲法記念日	水		金	★採決・全協	月	総務	木	一般質問	3	土		火	文化の日	木	一般質問	日		水		水		3
4	土		月	みどりの日	木	全協	土		火	政策別計画調整 文教厚生	金	一般質問	4	日		水	文教厚生	金	一般質問	月		木		木		4
5	日		火	こどもの日	金	庁内(第5回)	日	子どもワークショップ リアル	水	産業建設	土		5	月		木	産業建設	土		火		金		金		5
6	月		水	振替休日	土		月	庁内(第6回)	木		日	シンポジウム	6	火		金		日		水		土		土		6
7	火		木		日		火		金	庁内(第7回)	月	一般質問	7	水		土		月	一般質問	木		日		日		7
8	水		金	審議会(第1回)	月		水	市民アンケート発送	土		火	議案質疑	8	木		日		火	議案質疑	金	16-17レク	月		月		8
9	木		土		火	審議会(第2回)	木		日		水	総務	9	金		月	パブコメ(開始)	水	パブコメ(終了) 総務	土		火		火		9
10	金		日		水	一般質問通告	金		月		木	文教厚生	10	土		火		木	文教厚生	日		水		水		10
11	土		月	市長・副市長ヒア	木		土		火	山の日	金	産業建設	11	日		水		金	産業建設	月	成人の日	木	建国記念の日	木		11
12	日		火		金		日	子どもワークショップ デジタル	水	審議会資料発送	土		12	月	スポーツの日	木		土		火	庁内(第11回)	金		金		12
13	月		水		土		月		木		日		13	火	16-17レク	金		日		水		土		土		13
14	火		木		日		火		金		月	予算決算	14	水		土		月	予算決算	木		日		日		14
15	水		金		月		水	審議会(第3回)延期	土		火		15	木		日		火	予算決算(予備)	金	議案提出(仮)	月		月		15
16	木		土		火		木		日		水	庁内(第8回)	16	金		月		水	16-17レク	土		火		火		16
17	金		日		水		金		月		木	予算決算 審議会資料発送 予算決算	17	土		火	議員からの意見聴取② 全協	木	審議会資料発送 ★採決・全協	日		水		水		17
18	土		月		木	★開会・全協・3常任	土		火		金		18	日		水		金		月		木		木		18
19	日		火		金	一般質問	日		水	審議会(第3回)	土		19	月		木		土		火		金		金	採決(仮)	19
20	月		水		土		月	海の日	木	全協	日		20	火		金	一般質問通告	日		水		土		土		20
21	火		木		日		火	政策別計画作成依頼	金		月	敬老の日	21	水		土		月	庁内(第10回)	木		日		日	春分の日	21
22	水		金		月	市民アンケート回収 一般質問	水		土		火	国民の休日	22	木	審議会資料発送	日		火		金		月		月	振替休日	22
23	木	庁内(第4回)	土		火	一般質問	木		日		水	秋分の日	23	金	庁内(第9回)	月	勤労感謝の日	水		土		火	天皇誕生日	火		23
24	金		日		水	一般質問	金		月	一般質問通告	木	予算決算	24	土		火		木		日		水		水		24
25	土		月	総務	木	議案質疑	土		火		金	予算決算(予備)	25	日		水		金	審議会(6回)	月		木		木		25
26	日		火	文教厚生	金	総務	日		水		土		26	月		木		土		火		金		金		26
27	月		水	産業建設	土		月		木		日		27	火		金		日		水		土		土		27
28	火		木		日		火		金		月	審議会(4回)	28	水		土		月		木		日		日		28
29	水	昭和の日	金		月	文教厚生	水		土		火	予算決算	29	木		日		火		金				月		29
30	木		土		火	産業建設	木	政策別計画各課	日		水	議員からの意見聴取① ★採決・全協	30	金	審議会(5回)	月		水		土				火		30
31			日				金	市民アンケート	月				31	土				木		日				水		31

庁内(第4回)
4月23日(木)
10:00～11:30
素案審議

庁内(第5回)
6月5日(金)
16:00～17:30
骨子審議

庁内(第6回)
7月6日(月)
10:30～12:00
骨子審議
骨子確定

庁内(第7回)
8月7日(金)
13:00～14:30
素案①審議
現行計画の進捗管理

庁内(第8回)
9月16日(水)
13:00～14:30
素案②審議

庁内(第9回)
10月23日(金)
13:00～14:30
素案③審議
※パブコメ前確認

庁内(第10回)
12月21日(月)
13:00～14:30
素案④審議

庁内(第11回)
1月12日(火)
13:00～14:30
最終案確定
※議案提出前確認

審議会(1回)
5月8日(金)
18:30～20:30
諮問

審議会(2回)
6月9日(火)
18:30～20:30
骨子審議

審議会(3回)
8月19日(水)
18:30～20:30
素案①審議
現行計画の進捗管理

審議会(4回)
9月28日(月)
18:30～20:30
素案②審議

審議会(5回)
10月30日(金)
18:30～20:30
素案③審議
※パブコメ前確認

審議会(6回)
12月25日(金)
18:30～20:30
素案④審議
素案確定

シンポジウム
9月6日(日)
14:00～17:15

【資料 9】 こどもワークショップの結果概要

●こども関係団体へのヒアリング・先進事例調査を踏まえたこどもの意見収集のポイント

子ども関係団体の方々へのヒアリング結果や、他市町村の事例を参考に、今回のワークショップでは以下の点に配慮しました。

留意事項	結果
幅広い年齢層のこどもが集まるため、グループの内の年齢差が大きくなりすぎないようにする	学年の近い子どもたちを同じグループとすることで、早く打ち解け、 小学生も委縮せずに発言することができた
安心して発言ができるよう、グランドルールはこどもたちと一緒に作る	楽しめる会話、楽しめない会話 をそれぞれ挙げてもらい、お互いを気遣いながらワークショップを進めることができた
ワークショップの目的や、意見をどのように反映していくのかをこどもたちに示したうえで行う	総合振興計画の概要や今後の流れを説明 し、高校生・大学生には引き続き協力いただけることになった
アイスブレイクを行い、意見を出しやすい雰囲気をつくる	最近あった楽しかったことをテーマにアイスブレイクを行い、 緊張がほぐれた状態 でワークショップを進めることができた

●参考：ヒアリング結果の概要

ヒアリング事項①

浜田市におけるこども・若者の近年の政策課題について

- ・不登校への対応
- ・乳幼児期からの支援
- ・こどもが安心して挑戦できる環境づくり
- ・人権意識の共有

ヒアリング事項②・③

今後のまちづくりや第3次総合振興計画策定のプロセスで、こども・若者の意見をどのように収集して、反映すると良いか

- ・不登校、障害のあるこどもなど、多様なこどもの意見把握が重要
- ・会議やアンケートだけでなく、日常的・非公式な場での意見聴取も重要
- ・こども基本法の趣旨やランディモデル※などを参考に進めることが望ましい
- ・こどもの意見を尊重し、大人も共に考えることが重要
- ・形式的な意見聴取ではなく、こどもの意見がどのように反映されたかを示す
- ・ワークショップはグランドルールからこどもたちと一緒に作る
- ・学校や保護者を通じた周知・説明を行い、参加しやすい環境を整える

※ランディモデル…こどもの意見表明権（権利条約12条）を実質的に保障するための4つの要素（場、声、聞き手、影響力）からなる枠組み

【役割分担】

・政策企画課4名：全体進行、さとゆめ社3名：ファシリテーター

議題		時間(分)		担当	内容
開会挨拶	1330	5		政策企画課	
ワークショップの進め方	1335	2(7)		さとゆめ	・全体像を説明
本取組の背景及び目的	1337	3(10)		さとゆめ	・総合振興計画をこども向けにわかりやすく説明
浜田市の現状・将来	1340	5(15)		さとゆめ	・浜田市の地理的範囲をわかりやすく説明 ・浜田市の現状・将来の人口動向をわかりやすく説明
アイスブレイク	1345	15(30)	11	さとゆめ	・各テーブルに分かれて、アイスブレイクを開始
			3		・発表（できそうであれば子どもから）
			1		・総括
グランドルールの制定	1400	15(45)	11	さとゆめ	・ワークショップのグランドルールをこどもたちと一緒に制定
			3		・グループごとにファシリがとりまとめ、各1分で発表
			1		・総括
休憩	1415	10(55)			
以下、①,②のグループに分かれ、それぞれワークショップを行う					
ワークショップ① ～浜田市の居心地の良い 場所・好きな場所～	1425	45(100)	35	さとゆめ	・こどもからみた浜田市の居心地がよく、好きな場所はどこか把握
			9		・各グループ1分で発表
			1		・総括
ワークショップ② ～市長に提案したい地域の 魅力化事業～	1425	45(100)	35	さとゆめ	・浜田市をもっと魅力的なまちにするために、どんな取組があると 良いか把握
			9		・各グループ1分で発表
			1		・総括
振り返り	1510	5(105)		さとゆめ	・グループごとに今回のワークショップの振り返りを行う
シンポジウムの紹介	1515	5(110)		さとゆめ	・シンポジウムに登壇して、市長に地域の魅力化事業を提案したい こどもを募集
閉会挨拶	1520	5(115)		政策企画課	
全体撮影	1525	5(120)		さとゆめ	

●こどもワークショップ当日の風景

●参加者集合写真



●発表風景



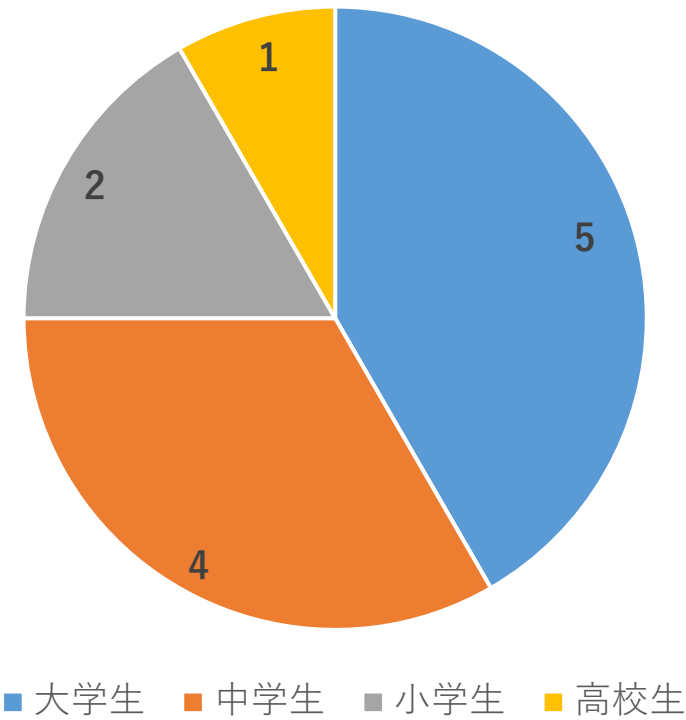
●ワーク風景



●こどもワークショップ参加者の状況・グループ分け

・こどもワークショップに参加したこどもの内訳は以下の通りで、グループ内の年齢差が大きくなりすぎないように、3つのグループに分けてワークを行いました。

こどもワークショップ参加者の内訳
n=12



グループ	属性	人数	ワークの内容
グループ 1	小学生	2	浜田市の居心地の良い場所・好きな場所
	中学生	2	
グループ 2	中学生	2	浜田市の居心地の良い場所・好きな場所
	大学生	2	
グループ 3	高校生	1	市長に提案したい地域の魅力化事業
	大学生	3	

①浜田市の居心地の良い場所・好きな場所

- ・上位3カテゴリは以下の通りで、居心地の良い場所・好きな場所としてはゆうひパークや水族館等の商業施設が一番多く挙げられました。
- ・意見を出してもらう際には、画用紙に平日・休日/昼・夜の4象限を用意し、それぞれ思い浮かぶ場所を付箋に書いて貼っていただきました。

票数	カテゴリ	内容
23	商業施設	ゆうひパーク、ゆめタウン、水族館、銀天街 等
13	学校	教室、図書室、テニスコート 等
6	家	自分の部屋、友達の家、家の庭 等

	学校のある日		やすみの日	
	学校施設		拠点となる商業施設	
ひる	計11票のうち、 9票 学校施設 (教室、図書室等)	理由 ・ここに行けば誰か(友達、知ってる人)がいるから ・友達と会えるから	計31票のうち、 16票 商業施設 (ゆうひパーク、水族館等)	理由 ・友達と遊べるから ・景色がいいから
	1票 公共施設(体育館) 1票 屋外の居場所(通学路)		9票 自然 (畳ヶ浦、海の見える公園)	
	放課後集まれる居場所		どんちっちタウン	
ゆうがた・よる	計9票のうち、 2票 地域コミュニティ (まちづくりセンター等)	理由 ・友だちと過ごせるから ・自分の自由な時間	計11票のうち、 6票 商業施設 (飲食店、どんちっちタウン)	理由 ・ともだちとの交流 ・くつろげる
	2票 家		3票 家	

●基本構想への反映方法

市民アンケート調査結果の分析から、サードプレイスの有無が市民の幸福度に影響を与えていることが明らかになりました。この分析結果を踏まえ、こどもたちの幸福度向上に向けて、こどもにとって居心地の良い「サードプレイス」の具体像を整理するとともに、その場所を守り・育て・さらに魅力を高めるための基本的な考え方を基本構想に位置付けます。

②市長に提案したい地域の魅力化事業

- ・魅力化事業としては、漁業に関するものや、居場所づくりに関するもの、移動手段に関するもの等が挙げられました。
- ・今後魅力化事業をブラッシュアップしていき、9月に開催のシンポジウムで学生に発表してもらう予定です。

票数	カテゴリ	内容
5	漁業	漁師の所得を上げたい 担い手を増やす
		魚を安くたくさん食べられる場所
		「どんちっちアジ」を食べられる店
		お好み村みたいな魚を食べられる場所
		大きいスーパーにいかないと浜田産の魚が買えない
2	商店街	駅前が居場所 ふらっと立ち寄れる場所
		夜の居場所がない
2	道の駅	わざわざ行く場所に
		ゆうひパークをチルスポットに
2	海	釣り堀
		海上アスレチック フライボード
2	その他	モビリティ事業 乗り捨てできる乗り物
		作業に集中できるカフェ

●前期基本計画への反映方法

第3次浜田市総合振興計画シンポジウムで発表いただく子どもたちの意見を受け止めて、既存施策との整合や新規施策としての位置付けを検討します。

資料10

市民アンケート調査の結果概要

速報値

●アンケート調査の概要（18歳以上）

①調査対象

- ・市内に住所を有する18歳以上の者

②調査方法

- ・2026年6月時点の住民基本台帳を活用して、3,000人を無作為抽出
⇒地区別均等割付を実施後、地区別の年齢階級別人口の構成比に基づき、地区別・年齢別の調査票配布数を確定
- ・送付方法は郵送、回収方法は郵送又はインターネット

③調査期間

- ・2026年7月8日～2026年7月31日の約3週間

④回収数

- ・アンケート調査票の回収数は(n=514)で回収率は17% ※現時点の速報値の集計
- ・回収率17.2%（速報値時点）

地区	18-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上	計
浜田	16	12	24	29	44	33	17	175
金城	4	6	18	14	16	26	5	89
旭	6	14	10	9	23	24	10	96
弥栄	3	3	11	5	9	9	6	46
三隅	4	4	16	20	33	20	11	108
計	33	39	79	77	125	112	49	514

⑤標本誤差の確認

地区	18-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上	計
浜田	24.5	28.2	20.0	18.1	14.7	17.0	23.7	7.4
金城	48.7	39.7	22.6	25.8	24.2	18.9	43.7	10.3
旭	39.8	25.8	30.7	32.3	19.9	19.4	30.7	9.9
弥栄	55.5	55.5	28.2	43.2	32.0	32.1	39.7	14.1
三隅	48.9	48.9	24.3	21.6	16.8	21.7	29.4	9.3
計	17.0	15.6	11.0	11.1	8.7	9.2	14.0	4.3

緑	10%未満
薄黄	10-15%
橙	15-30%
赤	30%以上

①調査概要

項目	小学生	中学生	高校生
調査対象	・市内の小学校に在籍する第5学年及び第6学年の児童	・市内の中学校に在籍する第1学年から第3学年までの生徒	・市内の高等学校に在籍する第1学年から第3学年までの生徒
調査方法	・2026年7月20日以降、各学校のホームルーム等において実施	・2026年6月16日以降、各学校のホームルーム等において実施	・2026年6月30日以降、各学校のホームルーム等において実施
調査期間	・2026年6月16日～2026年7月8日（約3週間）	・2026年6月16日～2026年7月8日（約3週間）	・2026年6月30日～2026年7月7日（約1週間）

②回収率及び標本誤差の確認

区分	母集団 N	回収数 n	回収率	標本誤差
小学生（5・6年生）	766	518	67.6%	± 4.31%
中学生	1141	985	86.3%	± 3.12%
高校生	801	550	68.7%	± 4.18%

浜田市版ウェルビーイングの考え方

・本市のウェルビーイングをはかる KGI は「幸せの4因子合計」とし、4因子で構成する。各因子について、影響を持ちうる主観因子およびその他因子を抽出したところ、因子ごとに特徴的な項目が浮かび上がるとともに、複数の因子に横断的に効きうる要素も確認されました。今後、これらの要素を用いて影響度を定量的に評価した上シミュレーション分析を実施し、政策・施策のエビデンスとして活用していきます。

幸せの4つの因子合計

主観的幸福度との相関 $r = +0.625$ （中程度の正の相関）で妥当性を検証
現況値：17.93（最大28点） 目標値：

やってみよう

現況値：3.78（最大7点） 目標値：

ありがとう

現況値：5.55（最大7点） 目標値：

なんとかなる

現況値：4.03（最大7点） 目標値：

ありのままに

現況値：4.57（最大7点） 目標値：

主観因子	相関 r
自己肯定感	+.57
精神的健康	+.44
町内互助	+.35
地域の雰囲気	+.34
その他因子（抜粋）	点差
サードプレイス	1.89
世帯年収	1.15
可処分時間	0.99
地域活動	0.86

主観因子	相関 r
世代継承意識	+.53
町内互助	+.51
自宅の居場所	+.40
地域の雰囲気	+.36
その他因子（抜粋）	点差
サードプレイス	1.33
可処分時間	1.23
主な職業	0.87
町内会参加	0.73

主観因子	相関 r
自己肯定感	+.57
精神的健康	+.48
地域の雰囲気	+.34
やりたい仕事	+.33
その他因子（抜粋）	点差
サードプレイス	1.58
世帯年収	0.86
地域活動	0.62
可処分時間	0.60

主観因子	相関 r
精神的健康	+.34
世代継承意識	+.33
自宅の居場所	+.33
地域の雰囲気	+.31
その他因子（抜粋）	点差
サードプレイス	1.38
可処分時間	0.82
主な職業	0.43
町内会参加	0.38

1. 市民の幸福度は全体として高めだが、伸びしろが残る

- ・ 主観的幸福度は平均6.7点／10点、5点以上が約9割を占めており、全体としては高めの水準にある
- ・ 幸せの4つの因子（ありがとう因子・やってみよう因子・ありのままに因子・何とかなる因子）は全国平均を下回っている
- ・ 属性別には、全年代で女性が男性を上回り、学齢が上がるにつれて幸福度が低下する傾向が確認された（小学生7.9点→中学生7.5点→高校生7.2点→成人6.7点）

2. 幸福度を支えているのは「自分」と「地域」の両輪

- ・ 幸福度と強く関係していた要素は、大きく次の4点に整理される
 - － ① 自分のことを肯定的にとらえられているか
 - － ② 心が健康な状態にあるか
 - － ③ 家に居心地の良い居場所があるか
 - － ④ 地域とのつながりを実感しているか（互助・愛着・地域の雰囲気）
- ⇒ 幸福度は「個人の内面の充実」と「地域との関係性」の両方によって形づくられていると示唆される

3. 幸福度を左右するのは「サードプレイス（自宅・職場以外の居場所）の有無」

- ・ 居場所がある人となない人の幸福度差最大：**3.07点**
 - － 可処分時間（2.02点）、世帯年収（1.95点）、町内会参加（1.91点）を上回る
- ⇒ 「安心して過ごせる場所があるかどうか」が幸福度を大きく左右していることが示唆される

4. サードプレイスとして挙げられた具体的な場所

- ・ **大人（自由記述 N=78）**：突出した1位はなく、7つの領域に分散している
 - － 内訳：自然12／実家11／趣味・文化11／友人宅10／地域の集い10／公共施設10／飲食店8
 - － 具体例：トノウラ海岸、はまだ演劇クラブ、ほっとサロン浜田、市立図書館、アクアス、コメダ珈琲、らるご等
- ・ **子ども（こどもワークショップ）**：休みの日の昼：商業施設（ゆうひパーク等）/休みの日の夜：どんちっちタウン
学校のある日の昼:学校施設 /学校のある日の夕方：放課後集まれる居場所

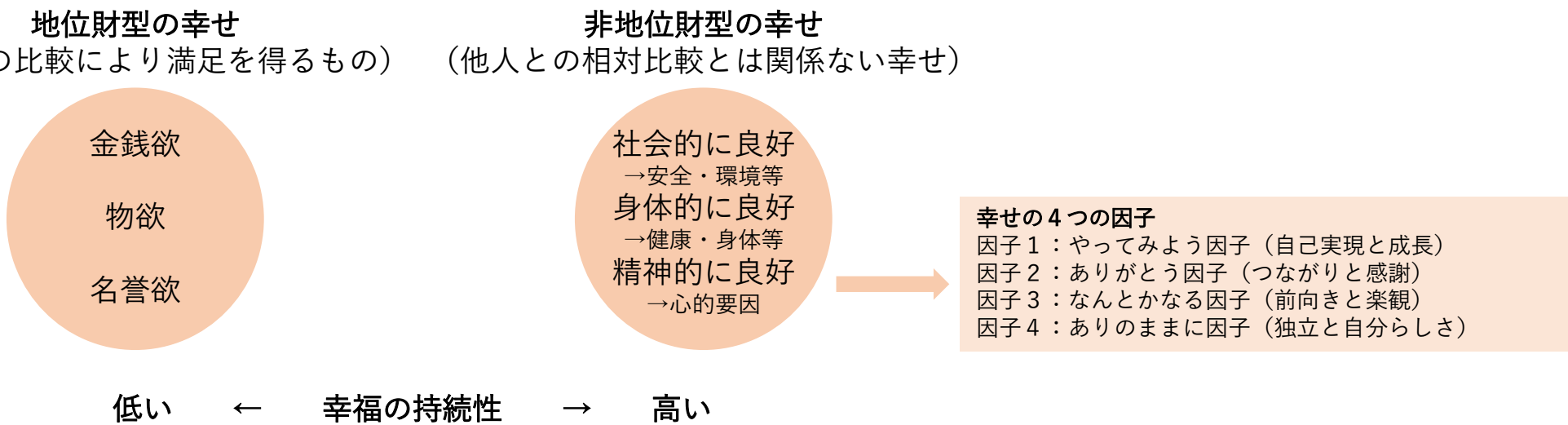
5. 次のステップ：影響度の定量化による政策の優先順位づけ

- ・ 今回明らかになった幸福度に関係の深い要素（自己肯定感・心の健康・サードプレイス・地域とのつながり など）について、それぞれが幸福度にどの程度影響しているのかを定量的に評価する分析を次に行う
- ・ 目的は、「どこに施策の力点を置けば市民の幸福度が最も高まるのか」の優先順位を明らかにすること
- ・ なかでもサードプレイスは単体での影響が最も大きかったため、次の分析においても中心的な論点となる見込みである

●ウェルビーイングの定義と考え方

○幸福の定義と考え方

- ・世界保健機関（WHO）が1946年に定めた「世界保健機関憲章」では、ウェルビーイング（本資料では幸福と同義として扱う）とは、「**肉体的にも、精神的にも、そして社会的にもすべてが満たされた状態**」と定義しています。
- ・幸福は「地位財型」・「非地位財型」が存在し、「**非地位財型**」の方が**幸福の持続性が高い**といわれています。また、心的要因として、**幸せの4つの因子（自己実現と成長、つながりと感謝、前向きと楽観、独立と自分らしさ）**を満たす人は**幸福**であることも指摘されています。



出典：上記の知見は、前野隆司「幸せのメカニズム 実践・幸福学入門」,講談社現代新書,2013.を参考に整理

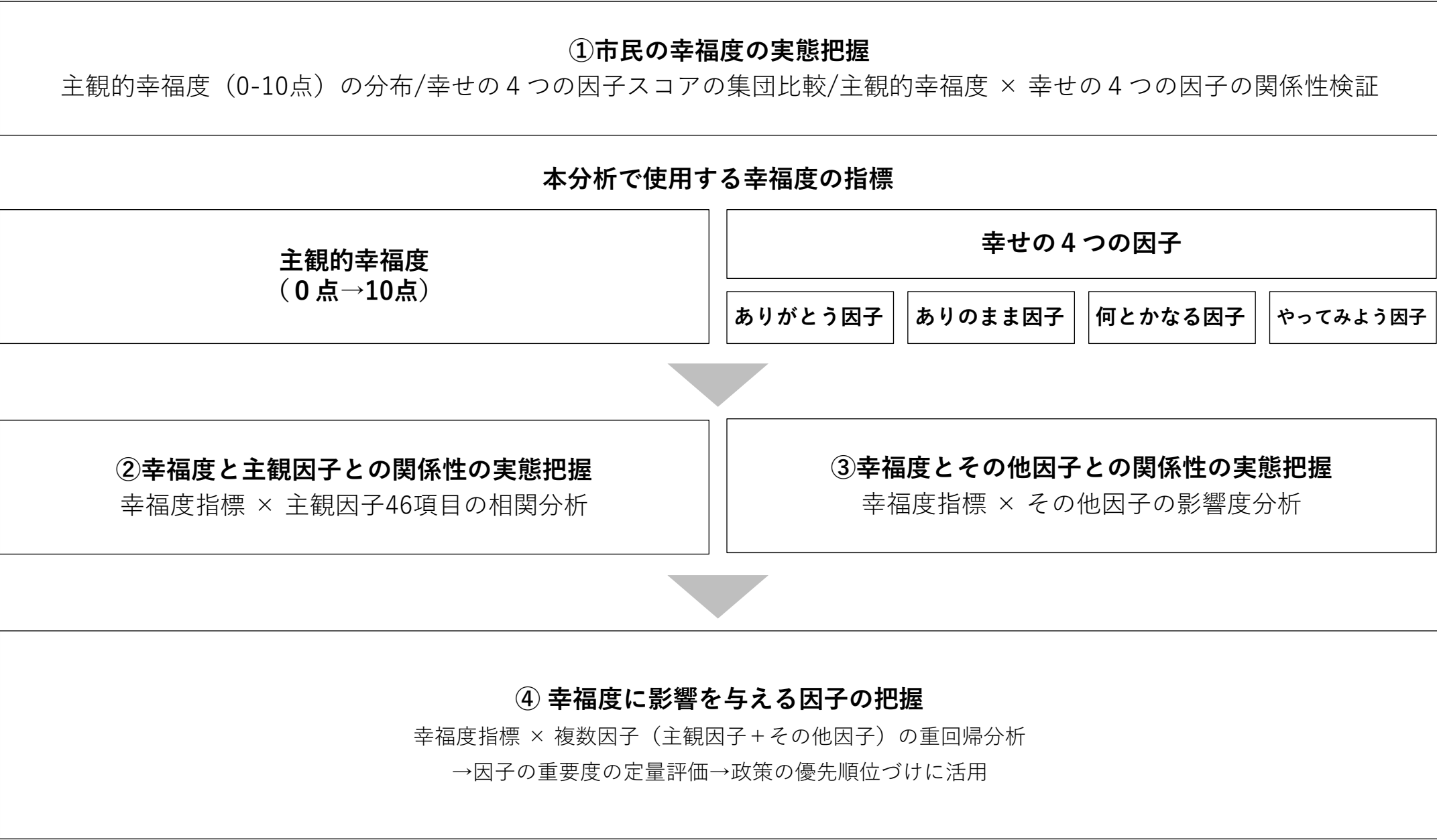
○幸福の効果

- ・幸福が高まることにより、以下に示す①～④の効果が期待できます。
 - ・こうした幸福の効果も踏まえた上で、幸福を高めるための政策を検討することが重要です。
→例えば、**幸せの周囲への波及効果（効果①）**を見据えた、**コミュニティ政策のスキーム設計等が重要と思慮**されます。
- ①コミュニティへの影響(幸せな人に合うと15.3%幸せになる確率向上、幸せな人にあった人に合うと5.6%幸せになる確率向上)
②パフォーマンスの向上(生産性1.3倍、創造性3倍、売上37%向上)
③社会的損失の低下(離職率低下、欠勤率37%低下、燃え尽き症候群になる確率400%低下、重大な事故率7割低下)
④健康・寿命の延伸(幸せな人は7.5～10年程長生き)

出典：上記①～④は、株式会社はぴテック,幸福度診断 Well-Bing Circle, <https://www.lp.well-being-circle.com/>,2024.7月閲覧.を参考に整理

・アンケート調査結果を活用した分析の全体像は以下のとおりです。

■分析のフロー



・本分析を実施する上で重要となる幸福度を測定する設問は以下のとおりです。

○主観的幸福度

→あなたの考えに近いものに該当するものを1つ選んでください。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として、何点くらいになるかをお選びください。「現在、あなたはどの程度幸せですか。」

○幸せの4つの因子

→次の各項目について、あなたの考えに近いものに該当するものを1つ選んでください。（7段階評価）

因子名	設問
やってみよう因子	私は有能である
	私は社会・組織の要請に応えている
	私のこれまでの人生は、変化、学習、成長に満ちていた
	今の自分は「本当になりたかった自分」である
ありがとう因子	人の喜ぶ顔が見たい
	私を大切に思ってくれる人たちがいる
	私は、人生において感謝することがたくさんある
	私は日々の生活において、他者に親切にし、手助けしたいと思っている
なんとかなる因子	私はものごとが思い通りにいくと思う
	私は学校や仕事での失敗や不安な感情をあまり引きずらない
	私は他者との近しい関係を維持することができる
	自分は人生で多くのことを達成してきた
ありのままに因子	私は自分と他者がすることをあまり比較しない
	私に何ができて何ができないかは外部の制約のせいではない
	自分自身についての信念はあまり変化しない
	テレビを見ると、チャンネルをあまり頻繁に切り替え過ぎない